

日本人「發表個人意見」的分析 ——爲了中級到高級程度的會話指導——

吉田妙子
政治大學副教授

中文摘要

高級程度口頭表現能力的標誌是有辦法作「發表個人意見」、也就是不只是句子也有能力組成段落。「發表個人意見」和演講不同、是指在會話中拿到主導權的說話者沒有和其他人作話題的交替、一個人持續地述說一個完整的内容。本稿是收錄電視中 20 種日本人的談話類型、並將其文字化、分析現實中日本人「發表個人意見」的方式。結果如下、①構成「發表個人意見」的句子比一般的會話句子還要長、很少未完成文、②說到自己得意的分野時、很少間投詞或不完整型、③有些說話者的談話爲了達成「節連續」就會比書寫文還要長、④說明型和主張型的談話有很多原型文、經驗談和一般會話中有很多形式文等的結果很明顯的表現出來。同時、也考察了這樣的結果該如何應用在高級會話程度的教育。

關鍵詞

「發表個人意見」、間投詞、接續表現、文末表現、節連續

日本人の「一人話」の分析 ——中級から上級への会話指導のために——

吉田妙子
政治大学副教授

1. はじめに

1-1. 日本語の「上級」会話能力とは

通常、大学の日本語学科では1年次の初級日本語で基本文型を習い、2年次の中級会話で初級日本語を運用するすべを習うとともに、より発展した語彙・文型・言い回しを習う。それ故、1、2年次の課程をきちんとクリアし、中級日本語をマスターした学生なら、日常会話にはほとんど不自由しないようになれる（はずである）。

それに対して、上級会話の指導はイマイチ要点をつかみにくいようである。中級以上の日本語口頭表現能力、即ち日本語の「上級会話能力」とは、具体的にどのような言語的徴標を具えているのであろうか。学生の口頭表現能力を中級から上級へと一歩抜け出させるためには、どのような指導をしたらいいのだろうか。

1-2. 中級から上級へ

まず、中級の能力から検討しよう。ACTFL (American Council on the Teaching of Foreign Language—全米外国語教育協会) によって考案され、1990年代初頭から日本でも行われている会話能力判定テスト・OPI (Oral Proficiency Interview) という評価基準がある。それによると¹、中級の口頭能力は「会話に創造性があり、サバイバルができるが、会話の主導権を取ることができない」とある。例えば、「お住まいは？」と聞かれた時、初級学習者ならばただ「学校の

¹ 牧野他 2001、p.18～19 では、会話能力評価項目を「機能・タスク」「場面・内容」「テキストの型」「文法」「語彙」「発音」「社会言語学的能力」「言語運用能力」「流暢さ」の9項目に分け、それぞれ初級・中級・上級・超級の4段階のレベルを論じている。なお、初級・中級・上級には上・中・下のサブレベルがある。

近くです。」と、質問に対する直接の答だけを与えるところを、中級学習者は「学校の近くです。前は寮に住んでいましたが、先月引っ越しました。」などと、自発的にプラスアルファの情報を聞き手に与えることができるということである。むろん、「本来無口な人なら母国語でも聞き手に余分な情報を与えないのではないか」と反論する向きもあろうが、逆に言えば言語能力が不十分であるなら、たとえ本来話し好きな人であっても聞き手に余分な情報を与えることはできないのである。「会話の創造性・自発性」が初級との差異である。

しかし、中級では「会話の主導権を取ることができない²⁾」。日本語の会話は、互いに助け合いながら一つの内容を編み出していく「共話」形式を取る。極端な場合には、ネイティブが一方的に助け、言語能力の不十分な学習者は助けられるだけ、という力関係でも会話は成立する。しかし、これでは簡単なコミュニケーションはできても、「会話の主導権」は取れない。いつも相手に助けられているだけの言語能力では、早い話がケンカに勝てない。ケンカに勝つためには、上級レベルの言語能力を身につけなければならないのである。

1-3. 会話上級レベルを示す「一人話」の能力

OPIの基準によると、上級と認定されるのに必要な「文法」能力とは、牧野他 2001 に従えば³⁾、「談話文法を使って統括された段落が作れる」、つまり、「一人話ができること」である。それは、言葉のキャッチボールをしながら情報を共有するのではなく、一人だけである情報を一方的に相手に伝える文構成能力・発話持続能力である。

会話に於いて「一人話」が必要とされるのはどんな場合であろうか。「商品の説明をして客に買う気を起こさせる」「大家さんに犬を飼うことを認めてもらう」「勉強しない学生を叱る」「きのう見た映画の内容を友達に説明する」「会議で異議を差し挟む」など、相手の心に働きかける時に、それは必要となるであろう。商品を送りつけ

²⁾ 同上

³⁾ 同上

る、無断で犬を飼う、学生をぶっとばす、友達を映画館に引っ張っていく、会議では採決の時だけ挙手する、など、言葉を発せず実力行使という手もあるかもしれないが、それはその場しのぎの方策に過ぎず、そういったサバイバルストラテジーを常時用いているならば、その社会の成員として同等の扱いは受けにくいであろう。社会的能力とはある程度言語能力に支えられたものなのである。外国人には、特にそれが痛感されるはずである。

では、そのような「一人話」ができるための言語的徴標とは何であろうか。上級レベルに必要な文法要項は、牧野 1996 では⁴、「高頻度構文の完全なコントロール、複雑な構文の部分的なコントロール、接続詞が多い」とある。互いに助け、助けられながらの「共話」スタイルでは、一人一人の談話はセンテンスの少ない切れ切れのものになる。そうではなく、発話を長時間持続させ、まとまった内容を伝え、しかも内容の移行をスムーズに感じさせるには、適切な接続語が使いこなせることも重要であるし、発話の間を調整するフィラー⁵を適度に用いることも必要であろう。また、OPI 基準には明記されていないが、自然な文を作るには文末表現も考慮すべきであろう。

本稿は、テレビ番組から日本人の「一人話」のサンプルを取り出し、その中から「一人話」のパターンを抽出し、「一人話」のパターンを決定している要素（接続語、フィラー、文末表現等）を分析し、さらに上級会話教育に対しいくつかの提言をするものである。

2. 中級学習者と上級学習者の「一人話」

2-1. 中級学習者の「一人話」——ブツ切り文とギョウ詰め文

OPI の上級タスクの中に「手順の説明」がある⁶。この「手順の説明」から学生の「一人話」の類型を抽出してみたい。

⁴ 牧野 1996、p.186~188

⁵ Filler—隙間を埋める詰め物。転じて、間投詞など、文の間に挟む無意味語。

⁶ OPI 上級・「一人話」のタスクには「手順の説明」のほか、「描写」「比較」「あらすじ」「道順」「身近なことについての意見」「ロールプレイ・交渉」がある。

[タスク]

図を見ながら「犬の体重の量り方」を説明する。

[図]

1. 女性が犬を抱いて体重計に乗っている絵。体重計は 53 キロの表示。
2. 女性が犬を抱かないで一人で体重計に乗っている絵。体重計は 45 キロの表示。
3. 数式。 $53 - 45 = 8$

[回答例 1] (政治大学日文科 3 年生)

「まず、犬を抱いて体重計に乗ります。そして、犬と自分の体重を量ります。次に、犬を下ろして、自分の体重を量ります。そして、犬と自分の体重から自分の体重を引いて、犬の体重です。」(4文。接続助詞1つ。)

これは留学経験もなく、台湾でこつこつ勉強する学生の最も標準的な回答である。4文のうち3文が単文で、接続詞は「そして」だけ、最後の1文は接続語を不完全に使った「ブツ切り文」である。しかし、同様の回答をしたほとんどの学生は書いたものを読み上げるか、書いてから暗記したものを話していたのであり、学生たちの頭の中では書き言葉と話し言葉の区別がついていないことがわかる。

[回答例 2] (政治大学日文科 3 年生・転入生)

「犬を抱いて測った体重から、自分一人で測った体重を引くと、犬の体重が出ます。」(1文。連体修飾語を2つ使った複文。)

これは、前述の①と対極をなしている。構文能力の高いこの学生は、単文の寄せ集めを嫌って、連体修飾を2回も用いた高度な複文を作っている。しかし、文を短縮しすぎたあまり、「手順の説明」という談話目標からずれて「方法の要約」へと変質してしまっている。このような連体修飾をぎゅうぎゅうと詰め込んだ窮屈な「ギユウ詰め文」も所詮は「ブツ切り文」の裏返しで、共に書き言葉と話し言葉の区別がついていないことに変わりはない。

2-2. 上級学習者の「一人話」

前節と同様のタスクの回答例だが、上級学習者になると、談話の様相がガラッと変わってくる。以下の2名とも日本の若者の話し方に大きく影響を受けた学生で、OPIで上級と判定された者である。

【回答例3】(政治大学日文科4年生)

- a 「えーと、犬を抱いて、なんか、体重を量って、それから犬を下ろして自分だけで、なんか、体重を量って、そのあと、なんか、えーと、前の方の体重から後の方の体重を引いて、引くと、それが犬の体重になる。」(1文。文中指示語あり。間投詞が多い。)
- b 「うん、まず、犬を抱いて体重を量ると、それが53キロでしょ。それから犬を下ろして自分の体重を量ったら、それが45キロだから、53から45を引いたら、犬の体重は8キロ。」(2文。文末表現「でしょ」。文中指示語あり。接続助詞をよく使っている。)

まず、1文が長い。bは1文の中に接続助詞を3つも使っている。aは全体が1センテンスで、テ形接続が多くやや単調になっている。また、aにはフィラー「えーと」「なんか」が目立つが、これはいきなり説明を求められて考えながら話す時の自然な反応と言えよう。また、「それが」という文中接続詞が何回か見られる。

さらに、bに於ける「～でしょ」という相手を意識した文末、「8キロ。」という連体止めなど、文末表現の豊かさが見られる。

さらに、「あらすじ」のタスクの回答例を見てみよう。

「浦島太郎」のあらすじ(政治大学日文科2年生・日本在住経験2年間)

T: じゃあの、えーと、うん、浦島太郎の、えー、話を、ちょっと簡単にしてください。

S: 浦島太郎は、きょうじで、きょうしで、えー、あの・・

T: きょうし?

S: きよ、え? あの、りよ、りょうしで、すみません、漁師で、あの、毎日海に行つて魚を獲っていますけど、ある日、えと、海辺に行つたら、あの、子供たちが、えと、大きい亀をつかまっていじめているのを見て、あ、それ、ちょっとかわいそうに考えて、それ助けてくれたらその次の日に、あの一、その一、助けてくれた、あの、亀が来て、いい所に連れて行つて見たら、そこは龍宮城で、えー、そこで、あの一、きれいなお姫様と結婚して、いい、あの、幸せな時間を過ごしたんですけど、そのうちに、だんだん、あ一、故郷や両親が恋しくなつて、ちよ、あの一、お、おひめ、あの一、おと、お姫様に頼んで、あの、帰りたいと言つたら、じゃ、それ、あの、お姫様が、一つのプレゼントをあげたんですけど、それ、なんか、開けてくださいとそう言う、あの、約束にしてもらつて、あの一、自分の故郷に帰つて来たら、誰もし、しり、あ、知っている人がいなくなつて、あの一、山に登つていつたら、自分の両親の墓があつて、で、その時、箱を開けたら、あの、そこから煙が出て、あの一、しまたろうさんはもうお

爺さんになってしまったと、話なんです。

なんと、全体が1センテンスである。フィラー、接続助詞、「で」をよく使っているほか、特徴的なのは「～んですけど」によるセンテンスの連続であり、はっきりした文終結を避ける話し方である。

2-3. 中級学習者の「一人話」の問題点

以上のサンプルの中級学習者と上級学習者の談話のあり方を比較すると、中級学習者の口頭表現の問題は次のようにまとめられる。

A：自然なフィラーが使えない。

B：接続語が十分に使えない。

C：文末表現が貧弱で、「素足文⁷」が多い。

D：ブツ切り文が多く、長い文が作れない。(Bなどの原因で)

Aは談話の自然さに関わり、BとDは談話の結束性を決定し、Cは談話のモードを決定するので、会話の指導上重要だと考えられる。

3. 日本人の「一人話」のサンプル調査

3-1. 「一人話」の選択の観点

「一人話」の談話スタイルを決定する要因を、以下の点に求めた。

1. 聞き手の条件。「一人話」は「独り言」とは違い、必ず相手がいる。聞き手の人数、特定か不特定か、話者との親疎・上下関係等。
2. 話者の条件。性別、年齢、出身地、職業、社会的地位、教養等。
3. 「一人話」の内容。話者の経験や心情の開陳か、話者の専門分野に関することの説明か、社会的な主張か、話者に直接関係ない話題についての質問に答えたものか、準備可能な内容か、等。
4. 「一人話」が行われるシチュエーション。聴衆の有無、話者と聞き手の物理的距離、等。

以上の4点に鑑みて、筆者はさまざまな特徴を持つテレビ番組を

⁷ 筆者の造語である。寺村 1987 の言う「対事ムード」「対人ムード」のない文は「素材文」と言えるが、本稿では、調査で特徴的に見られたモダリティ以外の文末を持つ文を、靴を履いていない裸足の状態になぞらえて「素足文」と名づけた。

採集・文字起こしをし、サンプルとして抽出した。以下は採集番組のリストである。(NHKはすべて衛星放送ワールド・プレミアム)

(1) ニュース ⇒ 資料 1

「ニュースセブン」 2002.2.15.(金) 9:00pm~9:30 pm NHK

- ① 完全に文章が準備された報道原稿である。
- ② 聴衆は不特定多数の視聴者。

(2) 説明 ⇒ 資料 2

「ニュースセブン」 2002.2.15.(金) 9:00pm~9:30 pm NHK

- ① ある程度準備された説明談話である。
- ② 聴衆は当該テーマに関心を持つ不特定多数の視聴者。

(3) ニュース解説 ⇒ 資料 3

「ニュースセブン」 2002.2.15.(金) 9:00pm~9:30 pm NHK

- ① 話す内容が準備されたインタビュー形式の談話である。
- ② 聞き手は、話者の話を引き出すアナウンサー。
- ③ 形式的には質疑応答の形の対談だが、不特定多数の視聴者がいる。

(4) 討論番組 ⇒ 資料 4

「日曜討論—与野党に問う・田中外相更迭と国会審議」

2002.2.3.(日) 9:00am~10:00am NHK

- ① テーマは限定され、話す内容もある程度準備されていると思われるが、展開により対立党派との丁々発止もあり、討論の流れが予測不可能の部分もあり得る。
- ② 直接の聞き手は、プログラムを持ちつつも話の交通整理をする司会者だが、不特定多数の視聴者がいる。
- ③ 話者は全員政治家、当該テーマに関して与党側3名、野党側4名。話者の社会的立場、職業、年齢などは社会的にほぼ一つの層をなしている。

(5) 座談会番組 ⇒ 資料 5

「真剣10代しゃべり場—不良経験って無駄なこと？」

2002.2.3.(日) 12:30 pm~1:15 pm NHK

- ① 出席者は中学生・高校生の13名。
- ② テーマは決まっているが、台本なし、司会者なしの自由討論。

(6) インタビュー番組

(6-1) 「トップランナー・京極夏彦」 ⇒ 資料 6-1

2002.2.17.(日) 2:00 pm~2:45 pm NHK

- ① 若手の男女司会者2名によるインタビュー。
- ② 話者は小説家、30代後半、男、独特の経歴を持つ教養人。

(6-2) 「トップランナー・城之内ミサ」 ⇒ 資料6-2

2002.2.24. (日) 3:00 pm~3:45 pm NHK

- ① 若手の男女司会者2名によるインタビュー。
- ② 話者は音楽家、40代前半、女、エリートコースを歩んできた。

(6-3) 「スタジオパークからこんにちは・白竜」 ⇒ 資料6-3

2002.2.19. (日) 2:00 pm~2:45 pm NHK

- ① NHKの男女アナウンサー2名によるインタビュー。
- ② 話者は芸能人、40代後半、男、下積みの長い苦労人。

(7) 告白番組 ⇒ 資料7

「校園瘋神榜・大橋中学校」(日本語タイトル「学校へ行こう」)

2002.3.2. (日) 12:00 pm~1:00pm 台湾ケーブルテレビ JET

- ① 話者は中学生。学校の校舎の屋上から校庭の同窓に向かって大声で本音を告白する。
- ② 聞き手は多数の同窓。話者と聞き手の間に大きな物理的距離がある。

3-2. 統計の方法

稿末の表は、さまざまな人物のさまざまな種類の談話について、2-3で述べたA、B、C、Dの各項目の数値を出したものである。

x. 文節数：全談話の文節数を出した。文節の数え方は学校文法の

「自立語+付属語」に統一した。フィラーは文節と見なさない。

y. センテンス数：全談話のセンテンス数を出した。表中の「C.

文末表現」に掲げた文末を持つ文を1センテンスと認定した。

z. 節の数：談話全体の節の数を出した。

また、センテンスの長さをはかるため、1センテンスあたりの文節の数を出した。数値が高いほど1文が長くなる。

[文節数÷センテンスの数、 $x \div y$]

さらに、文の重さ(文の複雑さ)を調べるため、1センテンスあたりの節の数を出した。数値が高いほど文が複雑になる。

[節の数÷センテンスの数、 $z \div y$]

そして、1つの節の重さ(節の複雑さ)を調べるために、1つの節あたりの文節の数を出した。数値が高くなるほど、節が複雑になる。

[文節の数÷節の数、 $x \div z$]

A. フィラー：いわゆる間投詞、他品詞の間投詞的用法、及び「私はですね」など文節に後続する「ですね」、「実はね」など文節に後続する終助詞をまとめて「フィラー」として挙げ、フィラーが何文節あたりに1個出現するかを求めた。数値が低いほど、フィラーの出現度が高くなる⁸。 [文節数÷フィラーの総数、 $x \div A$]

B. 接続表現：文・節・文節を接続する語を総じて「接続表現」とした。「そして」等の接続詞、口語接続語の「で」、テ形接続、「～(んだ)けど」を接続表現として挙げた。また、口語に特徴的なテ形接続と「～(んだ)けど」の合計数を挙げ、節全体に対する比率を求めて「節連続度」とした。数値が高いほどテ形と「～(んだ)けど」の出現が多くなり、文がだらだら続くことになる。

[$(\text{テ形節} + \text{「～(んだ)けど」}) \div \text{節の総数} \times 100$ 、 $b \div z \times 100$]

また、接続語以外の文節中、接続語が何文節あたりに1つ現われるかを求めた。数値が低いほど、接続語の出現数が高いことになる。 [(全文節－接続語総数)÷接続語総数、 $(x - B) \div B$]

さらに、一般的に論理関係を作るといわれている接続詞・接続助詞が実際はどのように、どれくらい使われているかを調べるため、接続詞・接続助詞を、順接・逆接・因果・条件の機能別に統計し、その合計数の文節数に対する比率を求めた。数値が高いほど出現率が多くなる。 [接続(助)詞÷文節数×100、 $\beta \div x \times 100$]

C. 文末表現：今回特徴的だった「のだ」「わけだ」「～と。」、終助詞、接続助詞で終わる文、及び未完結文以外を「素足文」とした。接続助詞は、テ形や「けど」「から」などで終わる（またはそれに終助詞を付け加えた）「言いさし」の文である。未完結文とは、単語だけの文、連体止め、文の途中で終わっている文など、省略の行われている文、つまり、述語部分が隠されている文である。

また、センテンスに対する「素足文」の比率を求めた。数値が高いほど、素足文の出現度が高いことになる。

⁸ ∞（無限大）は、何文節話してもフィラーが出現しないということである。

[素足文の数÷センテンスの数×100、 $c \div y \times 100$]

また、文法上は文終結と見なされにくい接続助詞文末と未完結文を合計し、センテンス全体に対する比率を求めた。数値が高いほど、接続助詞文末と未完結文の出現度が高いことになる。

[(接続助詞文末+未完結文)÷センテンスの数×100、 $c' \div y \times 100$]

D. 型崩れ節：視点の推移のため1文の中に複数の文ベクトルが存在し、構文が乱れている文を「型崩れ文⁹」とし、型崩れを起こしている節の、節全体に対する比率を求めた。つっかえ、重複、言い直し、挿入、倒置などは含まない。数値が高いほど、型崩れが多いことになる。 [型崩れ節の数÷節の総数×100、 $D \div z \times 100$]

4. 「一人話」のサンプルの分析

4-1. 談話の型の分析

今回の調査で有意差が見られたのは、①書き言葉と話し言葉の違い、②「一人話」のディスコースと会話のディスコースの違い、③「一人話」に於ける「専門談」と「経験談」の違い、の3つであった。これらの差異の考察することから、会話教育のあり方を考える。

4-1-1. 「文章」から「談話」へ

(1)「NHKニュース」、(2)「ニュース説明」、(3)「ニュース解説」の順に、だんだん砕けた談話になっていくのがわかる。

(1)「ニュース」は準備された原稿を読み上げる文であり、書き言葉(文章)を音声化したものと言っていいと思われるが、そこでは口語接続詞「で」やフィラー、あるいは談話文の前置き表現「～んですが」などはまったく見られず、文末表現もすべて素足文である。

(2)「ニュース説明」では、全体に談話風に変わってきている。聴

⁹ これも筆者の造語で、いわゆる主語・述語といった文法構造からはずれた文のことである。会話中、視点の推移によって話の中心が文開始時のものからどンドンずれていき、本来はひたすら文末述語に向かっていくはずの文ベクトルがあちこちに向きを変え、ついには文の最初と最後ではテーマも違い、主語と述語も対応しない非文法的な文になってしまう、という現象を指す。

衆を意識してわかりやすく話そうとするためか、「ニュース」よりもセンテンスが短くなっており、素足文が少なくなって親しみを感じさせ、接続表現も「で」や「～んですが」が出現する。また、フィラー「ま」が入っていて、談話の緊張度を和らげている。この「ま」「まあ」は、OPIのトレーナーの話によると、日本語会話の練達度を最もよく示すフィラーだそうである¹⁰。フィラーが皆無であるはずのニュースの中でさえ、注意して聞いていると、非常にかすかではあるが、「ま」という音が聞こえてくるのに気づく。こうなると、「ま」「まあ」はほとんど生理現象と言っていいくらいの自然なフィラーと言える。が、さすがに型崩れは全く起こしていない。

(3)「ニュース解説」になるとほとんど普通の談話体になり、数値も他の談話と近くなる。フィラー、挿入や訂正の激増、素足文の激減など、訓練された「正しい日本語」からの大きな飛躍が見られる。

以上のことから、「紙に書いてから暗記させる」式の会話指導がいかに現実と乖離したことを教えているものであるか、理解できよう。

なお、フィラー、文末表現、型崩れで(1)「ニュース」と同様の結果が出たのは、(7)「告白」である。この番組の話者は恐らくは原稿を準備していると考えられ、また大勢の聴衆に向かって話しかけ、中断される可能性もないので、むしろスピーチに近い談話であるが、スピーチと違い、話者と聴衆との間に物理的距離がある、という特別なシチュエーションがある。このため話者は大声でゆっくり話さなければならず、フィラーを挟む余地もなくなり、文をだらだらと続けることもしにくい。これは、訓練されたアナウンサーがフィラーや型崩れ文を発しないのとは原因を異にするものであろう。

4-1-2. 「一人話」と「会話」

文字によって表現されたものは「文章」と呼ばれ、音声によって

¹⁰ 1998年8月3日～6日、政治大学に於いて台湾で初めてのOPIワークショップが行われ、筆者も参加した。その時のトレーナー、カナダのコロンビア大学(The University of British Columbia)、コーリア佐貫・葉子助教授の話である。

表現されたものは「談話」と呼ばれる¹¹。しかし、音声によって表現されたものでも、複数の人間が交代で話す「会話」と、一人の人間が独壇場で話す「一人話」とは違う。さらに、「一人話」の中でも、話し手と聞き手の役割が固定されているスピーチなどはまた違う¹²。本稿の「一人話」とは、「ターンテイキングの起こり得る会話の中で、話者の一人が主導権を取って話した内容」を指す。

「一人話」の文法的能力は、1-2で述べたように、「段落を構成することができる」ということであった。しかし、インタビュー番組(6-1)(6-2)(6-3)の、それぞれ「経験談」乃至「専門談」と、「会話」を比較されたい。「経験談」乃至「専門談」は、聞き手とのターンテイキングなしに話者がかなり長く話す「一人話」の部分であり、「会話」は頻繁なターンテイキングが行われる部分である。これを見ると、「一人話」の部分は、会話部分よりも文が長いことがわかる。個人差はあるが、「一人話」における1文の長さは、会話部分のそのの、ほとんど倍以上になっている。また、会話の方が文も節も軽く、構文が単純になっており、未完結文や接続助詞文末も著しく多い。

一般に、ターンテイキングが行われる場合は1センテンスが短く、構文も単純になる傾向がある。しかし、相手の助けを必要としない「一人話」に於いては、1文がより長く、より複雑になる。つまり、ネイティブは、構文能力の個人差はあれ、必要に応じてセンテンスを長く複雑にすることができるのである。しかし、中級学習者は、ターンテイキングが頻繁に起こり、長い文・複雑な文・完全な文が必要とされない会話しか駆使することができない。上級会話で「段落を構成する」ためには、文レベルに於いてもより長い複雑な文を作る能力を持っていなければならないとすることができるだろう。

4-1-3 「専門談」と「経験談」

¹¹ 佐久間 1996 に詳述。

¹² スピーチは自己完結した内容を持つもので、会話中に起こるものではない故、狭義の「一人話」の範疇に入らないと思われる。5で詳述。

(6-1)(6-2)(6-3)の「インタビュー番組」に於ける「一人話」は、いずれも「説明」の型である。このうち、(6-1)(6-2)の「専門談」と「経験談」に数値の特徴が見られる。(6-1)(6-2)のいずれも、「専門談」の方が1文が長くなっている。また、フィラーと型崩れは「専門談」の方が少なく、素足文は「経験談」の方が少ない。

「専門談」は、話者の「おはこ」の分野を素人に噛み砕いて説明する談話である。心理的余裕もあり、100パーセント相手に聞かせる体制になっているから、独り言的な性質を持つフィラーは現われにくい。言語的準備も充分できており、文の論理構成も容易であろうから、長い文が作れるわりには型崩れも起こりにくい。

それに対して、「経験談」は記憶を探りながら話す談話であるため、言いよどみのフィラーも多くなり、言い直したり付け加えたりの型崩れも起こりやすくなる。全般的に情緒的な叙述になるのでモダリティが多くなり、素足文が相対的に少なくなる。

このことから、「一人話」をする時には、自分の熟知していることを話す方がよい談話ができると言えよう。学生に話させる時は、内容をよく調べさせたり検討させたりすることの方が、日本語そのものを準備し暗記させるよりも効果があるということになるだろう¹³。

4-2. 談話の型を決定する要素の分析

4-2-1. フィラーの二つの効用

暗記した準備原稿を述べるスピーチでは、フィラーがはさまる余地はない¹⁴。フィラーは、準備原稿なしに素手で話す談話（あるいは準備原稿を思い出しながら話す談話）に起こり得る。このような談話の中で、フィラーは2つの相反した効用を持ち得る。

ある種のフィラーは、談話のリズムを調整するのに役立つ。(4)「日曜討論」で、野党側が与党を攻撃して早口でまくし立てる場面では、

¹³ 事実、OPIでは、テスト対象者が「おはこ」の領域の話をしている時は他の領域の話より流暢になるので、テストは誤って対象者本来の口頭能力より上のレベルと認定しないように、と注意を促しているのである。

¹⁴ 橋内(1999)、p.103

適当なフィラーがなければ聞き手もついて行けないだろう。

しかし、談話の行き先を模索している時に使われるフィラーは内言に近く、多すぎると大変聞きにくい。同じく(4)「日曜討論」で、野党に迫及されて答弁する与党側の多すぎるフィラーは、いかにも逃げているという印象を与える。しかし、こと学習者の会話指導に関した場合、逆の評価ができると思われる。つまり、フィラーが多ければ多いほど学習者が暗記した文を話しているのではなく、考えながら言葉を紡ぎ出している証明になる、と言えるのではないか。

フィラーの種類は、話者の階層によって差異が著しい。全般的に見られるのは「あの」「その」だが、リエゾン間投詞は政治家以外に見られず、「なんか」は高校生を中心とした若年層に広がっており、逆に「えーと」類、「この」、「これ」、「こう」、「文節+ですね」は高校生には非常に少ないか、全く見られない。こうなると、フィラーはある種の自己表現なのではないか、とさえ考えたくなる¹⁵。学習者は当然、近づいた階層のフィラーに影響されるわけである。

一般にフィラーがないのがきれいな話し方と言われるが、学習者のフィラーは、いかに日本語に近づいたかの指標になり得るのだ。

4-2-2. 接続語と視点変更

「一人話」は段落であり、段落を構成するには接続語が不可欠である。「しかし」「だから」など、国文法で扱われる「接続詞」とは文頭で用いられるものである。この基準は、文の切れ目がはっきりしている書き言葉の文章には適用できる。しかし、話し言葉では、接続詞が使われているからといってそれが「文の開始」を意味するとは限らない。文の切れ目のはっきりしない談話中では、むしろ接続詞の文中用法の方が多い。つまり、談話に於いて接続詞は文の切

¹⁵ 今回の調査で「その他」の部類に入ったフィラーの中で特徴的なものとしては、「なんか」「何て言うか」、それに「もう」「だから」「やっぱり」「ちょっと」といった副詞の間投詞的用法であった。フィラーが談話内容の価値を表し、しかも話者の談話意識を示すものであるとしたら、新しいフィラーは今後ディスコース分析の分野でも、社会言語学の分野でも、もっと研究されていいと思われる。

れ目の指標にはなり得ず、反対に、明確な終止形を使っているにもかかわらず、それが意味上では文の切れ目になっていないことも多い。

書き言葉では、接続詞は文と文、あるいは段落と段落の論理関係を表す。しかし、文の切れ目がはっきりしない談話の中で、「接続表現」はいかなる役割を果たしているのだろうか。

ここで、型崩れと接続語出現度の関係を見てみよう。型崩れの激しいのは、(6-1)「経験談」、(4)菅氏、(5)高校生、の順であり、文と文の接続語の出現度が多いのは、(6-3)「経験談」、(6-2)「経験談」、(5)高校生、(4)菅氏、(6-1)「専門談」、(6-3)「会話」、(4)菅氏、の順である。これを見ると、型崩れの激しい文には必ず接続語が多く含まれていることがわかる。型崩れ文とは、文の途中で視点が変わり、文ベクトルが本来の述語を目指さず、次の語が聞き手に予測できない、という文であった。ということは、談話に於いて接続語は視点調整の役割を果たしているのではないか。テ形や「で」による論理関係の曖昧な節接続、「～(んだ)けど」による視点変更の言い訳、視点変更後の文中指示語による前節との関連付け、「だから」による前節との強引な関係付け、などがよく見られる¹⁶。

また、接続詞と接続助詞の使用も、話し言葉に限って言えば、談話の論理性を示さない。模範文とされるNHKニュースの接続語出現率は、他の談話よりもむしろ少ない。また、視点が行きつ戻りつして、どう見ても「論理的」とは評価できない(5)高校生の談話のこの数値が非常に高いこと、(6-1)と(6-2)で、先に型崩れがしにくいと評価された「専門談」より「経験談」の方が数値が高いこと、これらのことから、談話における接続語は論理性を保證するものでなく、むしろ論理的でない談話の中で、「論理的であらねばならぬ」という話者の意識から多用されたものであると見られる。

¹⁶ ただし、逆は真でない。接続語の多い談話が型崩れを起こしているとは限らない。例えば(6-2)「経験談」、(4)菅氏、(6-1)「専門談」(6-3)「会話」では接続語が本来の用法、つまり節と節の論理関係を追及する用法で多用されていると思われる。

学習者の談話指導に関して言えば、特に参考になると思われるのは、以下の(6-1)の「経験談」である。

京極：…で、「何か書かれたんですか」って言うから、「ちょっと、まあ、ちょっと書いちゃったんですけど」みたいな返事をしたら、「ミステリーですか」って言うから、「うーん、ミステリーのような」、「トリック考えちゃったんですか」とか聞かれて、「トリック、特にないですよ」みたいに…

1 センテンスの中に、順接、逆接、因果、条件のすべてが出現し、結果として接続詞・接続語の頻度が高くなっている。中級学習者にとってまず必要なのは、1 センテンスの中でこのように接続語を使いこなせることなのではないだろうか。

4-2-3. 文末表現のモード

文末表現は、説明モードとコミュニケーションモードに別れる。

まず、素足文であるが、書き言葉に近い(1)とスピーチに近い(7)は 100 パーセントの数値を示しているが、その他の談話では皆それ以下の数値である。当然のことながら、談話における文末は、何らかのモダリティ意識が働いているわけである。

「のだ」文は、「先行現象の背後事情の説明¹⁷⁾」であり、聞き手の知らない事実を開陳する機能を持つ。「わけだ」も同様の機能を持つが、「のだ」が単発の説明であるのに対し、「わけだ」は聞き手の疑問を筋道だつて説明しようとする時に使われる。従って、「のだ」がどの談話にも万遍なく現われているのに対し、「わけだ」が「専門談」や政治家の「主張型」の談話に多く見られるのは納得できよう。

「常体終止形+と」は、談話中でかなり独特な文末表現と言える¹⁸⁾。

¹⁷⁾ 田野村 (1990) 参照。

¹⁸⁾ 例えば、(4)筆坂氏「でー、田中さんは今回の件について言えばね、この誤りを糾したと。いわばね、日本外交の恥をね、糾したわけですよ。えー、糾してね、正しいことをやった方が、あー、事実上の罷免をされると。これはもうやり方がね、まったく、うー、逆立ちしてるということだと思っらうんですね。」この「と」は「～というわけだ」などの「引用」の「と」であり、話者が事件の渦中に嵌り込んでいるのではなく、外側から事件の全貌を眺めているというスタンスを表す。この「外側性」「俯瞰性」は事件の「決着性」の意識に通じる。「これで全員揃っ

この文末表現は自分の情報を相手に決めつけるスタンスを感じさせ、政治家に特に多く見られるが、政治家以外では女性より男性に多い。

以上、素足文、「のだ」、「わけだ」、「～と。」は説明モードの文末表現と言える。この「のだ」、「わけだ」に「ね」「よ」をつけると、コミュニケーションモードに切り替わる。

コミュニケーションモードの文末の中で最も特徴的なのは、接続助詞文末と未完結文である。これは、政治家の談話には全く見られず、政治家以外の談話では「一人話」に少なく、会話文に圧倒的に多い。接続助詞文末は、「から」「けど」「て」などで言いさして後節を聞き手に想像させるものである。いわば、接続助詞そのものに後節の情報が含まれているのである¹⁹。

未完結文が起こる原因は、2つあると考えられる。一つは、談話内容の焦点だけを話すタイプである。例えば、(6-1)会話部分、

はな：ええー、1時間しか寝てないんですか。

京極：忙しい時はね。(後略)

この種の談話は、聞き手に文法能力が備わっていれば、完成文の復元は容易である。これは、内容を焦点化した結果生じた、いわば文法上「合法的な」省略であり、わざわざ「ええ、忙しい時は1時間しか寝ません。」などと教科書的なフルセンテンスで言うのは、かえって会話進行のペースを狂わせ、情報伝達の効率を妨げることに

たと。じゃ、始めようか。」など、あるプロセスを決着のついたものとして後方に投げ捨て、次のプロセスに進むという、全行程の「区切り」意識である。「～と。」という文末によって、「事件の全貌を掌握している私が、認識の遅れているあなたに、事件の経緯を段取りよく説明してあげる」というスタンスになる。「決めつけ」的なこの言い回しは、聞き手にかなり抵抗感を与えるものに違いない。¹⁹ 例えば、「あした、何か予定がありますか。」という質問に対して、「ええ、出かける予定ですけど。」と言えば、その後の話の展開によっては「あしたの予定」を変更してもいいという、自分の発言に対する留保の含みを感じさせるが、「ええ、出かける予定ですから。」と来れば、「あした出かけること」を一方向的に宣告し、変更が不可能なことを感じさせる。発話内容に対する話者のスタンスを接続助詞のわずかな音節の機能語に込めるのは、まさに高等コミュニケーション技術と言える。白川 1990 等、参照。

なろう。

しかし、(5)高校生の次の談話はどうであろうか。

山添：それに、俺を気遣ってくれはったっていうか、それは変な同情とかじゃなくて、ある意味、心身鍛えてもらったって言ってもいいぐらいで、そやろ、俺が誰かとケンカして顔が腫れてたとす、時があって、で、それは、メチャ理不尽なケンカで、それは向こうが、俺は何も間違っていなかったっていう状況やって、そしたらその先輩は、うん、何が、いつ何が起こるかわからへん、ちょっとしたケンカでその人は地元にいれなくなったり、狙われてとか、あ、朝起きて窓から外見たら鉄パイプ持ったお、兄ちゃんが10人以上いるとか、そういう状況も考えられる世界やねな、でも、そんなスジの通ってへんことでお前が殴られたんはおかしいって言って、そいつのどこに話つけに行ってくれはったり、逆に俺がスジの通らへんことをした時は怒られたし、おまえ、おまえ、なに、何でそんなんしたんやとか、おれが間違ってるとか、だから、うん。

話者自身が談話の到達点を見失ってしまい、「だから」で結論を探しているが、結局言葉が宙に浮いてしまっ、それを最後の「うん」で収束させている。また、(6-2)「会話文」では、

城之内：で、それ、それも、だから、あの、今は別に珍しくないですけど、あの、本も出ましたしね、あの、人様は理解してくれることもあったんですけど、ああ、シーソー、シーソーっていつてる、って言う、何ですか、この人は、みたいな、はい。

話が話者自身の思いに入り込み過ぎたのを「はい」という相手志向の間投詞で収束し、談話の終結を告げるとともにターンテイキングを促している。

未完結文は、コミュニケーションモードの「省略」もあるが、話者が自分の世界に浸り込み過ぎて出口を見失った状態から来ている場合もある。こうなると談話は独り言に近づき、内言モードになる。

一方的な主張をするのに便利な説明モードの文末は政治家の談話に多く、会話ではコミュニケーションモードが多くなる。「一人話」はその中間であるが、話題によっても違い、個人差も大きいようである。

4-2-4. 文の冗長性について

話し言葉は書き言葉より文も短く、構文も単純であると考えられ

ている。ニュース文が書き言葉の方に分類されることは前述したが、それはかなり完成度の高い書き言葉と言える。ここで(1)「ニュース」を書き言葉の標準とすると、確かに(2)以下の談話の方が大体において1センテンスが短い²⁰。しかし、(5)の高校生たちの談話は「文の長さ」と「文の重さ」の数値が飛びぬけて高い。つまり、文も長いし1文の中の節も多い。これはいかなる原因によるものであろうか。

スクリプトを見ればわかるが、彼らはニュースのような複雑な構文を話しているわけではないからである。「節の重さ」の数値はそれほど高いわけではないからである。また、テ形接続と「～(んだ)けど」の出現度が高い²¹。さらに、「(～んだ)けど」という口語特有の文連続のし方は、口語の依頼、許可求め、勧誘などの前置き表現、場合によっては言い訳表現に用いられる。テ形と「(～ん)だけど」の出現度が高いほど節連続が激しいと考えられるが、(5)のその数値は全談話の中でも最高値の部類に入っている。

また、型崩れ度も高い。スクリプトを見ると、挿入や訂正も多い。

このような数値を見ると、「視点を絶えず変えながら、テ形や前置き表現を多く使って短い節を連続させ、思い出したことを時々付け

²⁰ 文の長さに関して言えば、政治家の数値の高さが目立つ。節の中に込められた語の数(B「節の重さ」)の数値も高く、濃度の高い談話である。しかし、型崩れ文はきわめて少ない。こと政治家の談話に関しては全員に共通するスタイルが見られ、特殊性を認めざるを得ない。この種の談話の型は「説明」というよりは、「ディベート」である。(これはOPIでは「説得」に当たり、超級のタスクになる。)政敵を論破し聴衆を説得しようとしてあらゆる修辞法を駆使するために、語が盛りだくさんになりやすい。しかし、「文節+ですね」というフィラーでリズムをつける、リエゾン型の間投詞(「それに、いー」など、語の最終音節の母音を引き伸ばす間投詞)で間を取る、「～というふうな」「～というような」などで引用内容に余韻を持たせる、「いろんな事実を述べると、そういうことをされただけで」など、前の語や節を指示語で繰り返すことにより、文に切れ目を入れてメリハリをつける、常体終止形に「～と。」をつけて弾みをつける、など緩急自在の言い回しで、全体としてリズムカルで聞きやすいものになっている。政治家独特の談話スタイルに関しては、別に社会言語学的な方面からの分析が必要であろう。

²¹ 吉田 1997 では、「テ形はそれ自身語彙的な意味はなく、文を中止する機能を持つのみなので、前節と後節の論理関係を考えず文を簡便につなげる時に用いられやすい。それ故、使い過ぎると幼稚な印象を与えてしまう」ことを論じた。

加えながら文末にたどり着く」、つまり、自分の言いたいことを模索しながら文を進める彼らの談話スタイルが浮かび上がってくる。日本の若者の話し言葉の影響を受けた学生に、このような談話スタイルが多く見られるようである。このような冗長なスタイルが望ましいかどうかは別問題として、単文、それも素足文だけを連ね、書き言葉を音声に転化しただけの中級レベルの学習者の談話スタイルに対し、この「節連続」という現象はある示唆を与えている²²。

5. 上級会話教育のために

5-1. 素手で話す訓練

4-1-1で述べたように、「書き言葉と話し言葉は違う」ということは、誰でも了解している事実であろう。しかし、意外と了解されていないのは、「一人話とスピーチは違う」ということである。スピーチは準備原稿があり、その限りでは基本的に書き言葉の範囲を出ていない。それ故、会話の授業でスピーチをさせたとしても、下手をすると「暗記」の訓練をしていることになりかねないのである。スピーチ教育の意義は、会話教育とは別のところにある。

書かれたものを暗記して話したり、ましてや読み上げたりする方式は、会話能力を進歩させるためには側面的な意味しかないことを認識すべきであろう。4-1-3で確認したように、学生に話すことを要求する際、学生が準備すべきは言語形式より話す内容である。話すモチベーションを高める指導が何よりも望まれる。

5-2. 文末表現の言語的訓練

その前提として、言語の知識と訓練も必要である。会話能力が中級から上級へ飛躍するための言語的訓練のポイントは、文末表現と

²² 同様の傾向を示しているのが、(4)「日曜討論」二階氏と(6-2)(6-3)の話者の「経験談」である。ともに節連続と型崩れが多い。テ形接続と「～んですが」を多く使うと、型崩れしやすいようである。但し、(6-2)の話者の「専門談」は節連続が比較的高いにもかかわらず型崩れ度はゼロであることから、この傾向は個人差があるようである。

接続表現であろう。4-2-3で論じたように、素足文だけでなく、豊かな文末表現が駆使できるようになることが必要である。特に多くの談話に見られる「のだ」文や接続助詞文末などのコミュニケーションモードの文末表現は、学習者は知っていても使いこなせないことが多い。文型習熟の問題は、作文教育の領域にも関わってくる。

5-3. 接続語の言語訓練

段落を作るためには、接続語の適切な使用を訓練することである。中級学習者は、教科書にない「で」という接続語は十分に使えない。文頭接続詞も「そして」と「しかし」くらいしか定着していないし、母国語干渉のため「そして」と「だから」をよく間違える。これらの言語訓練は、それほど難しいことではないと思われる。

しかし、4-2-4で述べたように、注意しないと節をだらだら続けて型崩れ文を作ってしまうことにもなりかねない。要は、接続助詞の「適切な」使い方である。4-2-2で述べたように、中級話者は接続助詞1つを用いた複文は作れるが、それ以上長い文は作れない。「この家はちょっと古いけど、造りがしっかりしているから、修理すれば充分住めるよ。」とか、「ほんとは用があったんだけど、太郎が3時って言うから無理して3時に行ったら、誰も来てなくて、チョーむかついた！」等のように、1文の中に3つも4つも接続助詞が入る「複複複文」や「複複複複文」は作れない。ある内容を複数の接続語を使って表現する練習も、さほど困難なことではない。

その場合、注意すべきは、なるべくテ形を使わず、「～んですけど」を適度に用いて節連続をさせる訓練をすることであろう。学習者によるテ形の多用は冗長であるだけでなく、誤用の素である²³。

5-4. 間を取るためのフィルターと情報価値を持つフィルター

テレビドラマなどで耳に入る日本語で、最初に覚えやすいのは音節構造の単純な間投詞である。4-1-1で述べたように、「まあ」

²³ ネイティブのテ形多用は単にしまりのない話し方というだけだが、学習者のテ形多用は接続助詞に未習熟なための誤用が多い。吉田(1997)第2章参照。

が生理反応に近いフィラーだとしたら、学生が談話の適当な所で自然に「まあ」を発したら、評価していいのではないか。それ故、フィラーは基本的には、予め教えるべき言語知識というより、生の会話に触れることによって自然習得を目指すべき性質のものであろう。

しかし、「まあ」は談話の内容に直接関わるものでないとは言え、話者からの情報価値に関するメッセージの場合もあり得る。例えば、「〇〇さんて、いい人ですね。」と言われて「そうですね。」と答える場合と、「まあ、そうですね。」と答える場合では、「そうですね」の価値が違ふ。前者の答は100パーセント肯定だが、後者の答は明らかに曇しのかかった肯定と感じられる。

「ね」「よ」など独立した情報価値を持つものも同様である。話者が相手の知らないことを話しているのに、「そうですね」などと相槌を打ったら、話者は「この人は私の話をちゃんと聞いていない」と感じるだろう。また、話を切り出す時の「あのね」はよく「我跟你説」と翻訳され、立派な語彙的意味を持つ。このように、単に間を取るためのフィラーは自然習得を待てばよいが、独立した言語価値を持つフィラーは、やはり言語知識として教える必要があるだろう。

以上が、本調査から見えてきた指導方向である。中級日本語をマスターした学生は、とりあえず日本旅行などはできるようになるわけだから、自国で生活する限り、多くの学生は外国語である日本語で「会話の主導権を取る」ことが必要とされる場面に至らず、サバイバル以上のレベルに達しようというモチベーションを持ちにくい。「一人話」のモチベーションを高める授業が望まれる。

6. 終わりに

「一人話」は談話の中で独自の位置を持つ。「一人話」は会話の中で起こるものであるが、ターンテイキングの行われる「共話」場面の談話とは違い、また独り言ともスピーチとも違ふ。「一人話」は会話の主導権を持つ者にのみ可能であり、そのためには中級話者の持たない「段落構成能力」を要する。その能力は、フィラーの現われ方、

接続語、文末表現などに見出され、談話の種類によっても若干の差異があるが、それらの多くは訓練によって高めることができる。以上のことが、本稿でいくらかでも明らかになったかと思われる。

しかし、談話研究ということであれば、本来は音声面の分析もなされなくてはならないだろう。談話が音声言語である限り、声の質、スピード、プロミネンスのつけ方、などが談話の質を決定する場合もあるだろうからである。今回は音声面の調査に至らなかったのも、完全な結果が出たとは言いがたい。また、調査対象の数も充分とは言えないだろう。(あくまでサンプルとしたのはそのためである。) 今後、より完全な研究が出てくることを期待するばかりである。

最後に、適切なご助言をくださった審査の先生に深く感謝したい。

〔参考文献〕(五十音順)

- 国立国語研究所、1987『談話の研究と教育Ⅰ』
国立国語研究所、1989『談話の研究と教育Ⅱ』
佐久間まゆみ他、1999『文章・談話のしくみ』おうふう
白川博之、1990『「テ形」による言いさしの文について』「広島大学
教育学部紀要1」
白川博之、1995『理由を表さない「カラ」』仁田義雄編『複文の研究
（上）』所収 くろしお出版
田野村忠温、1990『現代日本語の文法1—「のだ」の意味と用法』
和泉選書
寺村秀夫、1987『日本語のシンタクスと意味・Ⅱ』くろしお出版
寺村秀夫他、1996『ケーススタディ 日本語の文章・談話』おうふう
橋内武、1999『ディスコース 談話の織りなす世界』くろしお出版
牧野成一、1996『ウチとソトの言語学—文法を文化で切る』アルク
牧野成一他、2001『ACTFL OPI入門—日本語学習者の「話
す力」を客観的に測る』アルク
吉田妙子、1997『テ形の研究—その同時性・継時性・因果性を中心
に』大新書局

	(1) News	(2) 説明	(3) 解説	(4) NHK 日 曜 討 論							
				山崎	冬柴	二階	菅	藤井	筆坂	福島	
x. 文節数	193	143	263	53	174	122	116	164	151	145	
y. 文の数	10	11	14	3	8	6	7	21	11	13	
z. 節の数	40	30	104	10	26	23	24	37	37	32	
文の長さ(x÷y)	19.30	13.00	18.79	17.67	21.75	20.33	16.57	7.81	13.73	11.15	
文の重さ(z÷y)	4.00	2.73	7.43	3.33	3.25	3.83	3.43	1.76	3.36	2.46	
節の重さ(x÷z)	4.83	4.77	2.53	5.30	6.69	5.30	4.83	4.43	4.08	4.53	
A フ イ ラ イ	文節+ですね	0	0	10	6	13	4	4	4	0	0
	文節+終助詞	0	0	0	0	0	2	0	7	18	0
	ま、まあ	0	1	10	1	4	0	3	0	2	1
	リエゾン	0	0	0	12	3	1	2	0	4	0
	あの、その	0	0	21	6	2	1	7	4	1	0
	えー類	0	0	7	5	3	0	2	0	2	9
	この、これ、こう	0	0	4	0	3	3	0	1	1	0
	なんか	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	0	0	2	0	0	0	0	1	1	0
	x÷A	∞	143.0	4.87	1.77	6.21	11.09	6.44	9.65	5.21	16.11
B 接 続 表 現	b. テ形	2	4	7	2	1	4	4	3	1	1
	b. ~けど	0	1	4	0	3	1	0	2	4	0
	b÷z×100	5.00	16.67	10.58	20.00	15.39	27.78	16.70	13.51	13.51	3.13
	接続詞	3	0	3	0	3	6	3	4	0	2
	で	0	3	4	1	0	0	2	0	7	3
	指示語	0	0	5	1	0	2	4	1	3	0
	(x-B)÷B	37.6	16.88	10.44	12.25	23.86	8.39	7.92	15.4	10.09	23.17
	β 順接	14	7	15	4	5	7	8	6	8	7
	β 逆接	0	1	6	0	2	4	3	5	2	4
	β 因果	2	0	2	1	1	5	2	1	0	5
β 条件	0	0	0	1	0	0	2	2	2	0	
β÷x×100	8.29	5.59	8.75	11.32	4.60	13.12	15.52	8.54	7.95	11.04	
C 文 末 表 現	c. 素足文	10	9	5	1	3	4	3	7	1	9
	c÷y×100	100.0	81.82	35.71	33.33	37.50	66.67	42.86	33.33	9.09	69.23
	c+終助詞	0	1	2	0	0	1	1	3	4	0
	のだ(+α)	0	1	5	0	4	1	0	9	3	0
	わけだ(+α)	0	0	1	0	1	0	0	1	1	2
	終止形+と	0	0	1	2	0	0	3	1	2	2
	c'接続助詞	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	c'未完結文	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	c'÷y×100	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
D. 型崩れ節	0	0	0	0	3	8	1	0	0	0	
D÷z×100	0.00	0.00	0.00	0.00	11.53	34.78	4.17	0.00	0.00	0.00	

	(5)高 校生	(6-1) 京極夏彦			(6-2) 城之内ミサ			(6-3)白竜		(7) 告白	
		専門	経験	会話	専門	経験	会話	経験	会話		
x. 文節数	690	273	299	549	221	170	404	139	813	53	
y. 文の数	26	28	33	140	16	12	69	12	105	7	
z. 節の数	175	70	96	206	49	41	120	29	220	18	
文の長さ(x÷y)	26.54	9.75	9.06	3.92	13.81	14.17	5.86	11.58	7.74	7.57	
文の重さ(z÷y)	6.73	2.50	2.91	1.47	3.06	3.42	1.74	2.42	2.10	2.57	
節の重さ(x÷z)	3.94	3.90	3.11	2.67	4.51	4.15	3.37	4.79	3.70	2.94	
A フ イ ラ I	文節+ですね	1	2	1	5	0	0	1	2	6	0
	文節+終助詞	19	1	8	13	0	7	13	5	55	0
	ま、まあ	7	2	2	5	4	1	1	1	9	0
	リエゾン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	あの、その	17	9	10	19	12	5	19	8	52	0
	えー類	0	0	1	2	3	3	5	2	2	0
	この、これ、こう	1	3	1	1	4	9	7	0	5	0
	なんか	22	2	3	4	0	4	2	2	6	0
	その他	19	2	8	10	2	2	20	10	65	0
	x÷A	8.02	13.00	8.79	9.31	8.84	5.48	5.94	4.63	4.07	∞
B 接 続 表 現	b. テ形	37	8	15	9	7	10	23	10	38	3
	b. ~けど	23	2	2	9	8	1	5	1	12	1
	b÷z×100	34.29	14.29	17.71	8.74	30.61	26.83	19.17	37.93	22.73	22.22
	接続詞	10	2	0	6	2	8	12	1	11	1
	で	22	10	13	4	3	7	12	8	24	0
	指示語	6	8	1	0	2	0	5	1	2	0
	(x-B)÷B	6.04	8.10	8.65	18.61	9.05	5.54	12.93	5.04	8.14	9.60
	β										
	順接	78	19	30	3	11	20	5	20	6	5
	逆接	28	3	11	2	10	2	0	1	0	2
因果	8	5	5	2	3	2	0	5	6	2	
条件	5	7	6	2	7	8	1	2	1	0	
β÷x×100	17.25	12.45	17.39	16.39	14.03	18.82	1.49	20.14	1.60	16.98	
C 文 末 表 現	c. 素足文	6	7	7	36	5	0	22	0	15	7
	c÷y×100	23.08	25.00	21.21	25.71	31.25	0.00	31.88	0.00	14.29	100.0
	c+終助詞	0	2	5	31	5	3	17	1	38	0
	のだ(+α)	16	7	9	31	4	8	10	8	21	0
	わけだ(+α)	1	6	4	2	1	0	3	0	1	0
	終止形+と	0	4	1	0	0	0	0	2	0	0
	c'接続助詞	2	0	4	11	1	0	3	0	19	0
	c'未完結文	1	2	3	29	0	1	14	1	11	0
	c'÷y×100	11.54	7.14	21.21	28.57	6.25	8.33	24.64	8.33	28.57	0.00
D. 型崩れ節	38	3	2	3	0	2	9	11	39	0	
D÷z×100	21.71	4.29	2.08	1.46	0.00	4.88	7.50	37.93	17.72	0.00	